



こんにちは 我孫子市議会議員

# かい俊光 です

## ◎私の市政に対する一般質問

### 2045年に人口11万人に/ドローン許可を/水辺カフェ/図書館行政

#### 一、社人研の人口動態調査について

Q1 国立社会保障・人口問題研究所の2013年の人口動態調査では、2040年の人口を103,121人と予想(2016年我孫子市人口ビジョンでは105,654人)したが、今年3月の発表では、**2040年を114,347人(11,226人上振れ)、2045年を110,132人**と。人口減少が緩やかになった要因は子育て支援策や若い世帯の定住化施策が徐々に効果をあげた結果だと考えるが。転入転出者アンケート中間結果と予想が上振れした要因を。⇒転入者の7割20~30代。住宅価格や住宅補助等を考慮し転入。転入で0~19歳までの世代が予想より上昇。

Q2 人口減少への流れは変わっていない。最大の対策は**合計特殊出生率**が上がること。合計特殊出生率については、2016年で1.26と低いので他市を参考すれば⇒流山、木更津などは都市アクセスが優れ、商業施設があり有効求人倍率上昇。大型マンションが建ち、働く世代が流入。当市は他より安価な住宅の供給率を上げることや雇用創出必要。

Q3 政策の持続性もさることながら、**常に人口動態は検証**して行くべきでは⇒1月からアンケート継続



の役割は重要。我孫子市の図書館司書は、市の専門的職として限られた予算の中で本のスペシャリストとして活躍。各小中学校間の司書間の連携や協力は。移動図書館「そよかぜ号」を**市内小中学校に回しては⇒連絡会議年に2回。4課連携して研修会**。移動図書館は利用しやすいので検討(イ)多彩な推薦図書や、話題の新書の紹介、イベント開催、話しかけやすくなるよう工夫も⇒広報あびこに「図書館員の1冊」を掲載。カウンターなど工夫。

Q2 **館内で飲食**を許しては。手賀沼公園に面したスペースに読書できるような場所を設置するという事も考えられるが。アビスタ屋上の利用は

#### 二、公園、水辺の有効活用

Q1 公園ではドローン飛行を認めてないが、利根川ゆうゆう公園や手賀沼周辺などは航空法の適用外。国や民間企業ではドローンを使って、農業の効率を高めたり、離れた場所や高所、危険な場所での利用、配送の実験などを行って、将来の産業模索。ドローンの市場規模は、2016年は353億円、2022年度には2116億円と約6倍の市場規模。我孫子市でドローンが飛ばせる、新規産業の**ドローン使用を広く許可**しては⇒利用者の安全を考え公共性で判断。CM撮影や映画撮影などできるだけ許可を出すように。

Q2 公募対象公園にて、お店設置が「都市公園法」が一部改正され、設置を10年から20年に延長し、出店費用の回収が長期にわたってできるように。水辺の賑わいの為にも、知恵を絞って是非とも手賀沼公園に北柏のような水辺カフェを⇒柏市に出来て我孫子に出来ないことはないと思う。インフラ手法や移動トラックなどを含め実現に努力。

#### 三、図書館行政について

Q1、(ア)「アビスタ」は平成21年の58万8241人の来場者数をピークに年々減り、平成28年は43万3,763人。**来場者が増える施策を**。図書館司書

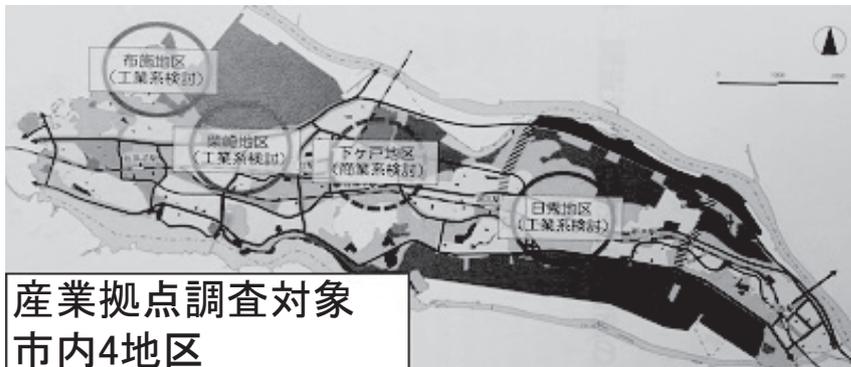
⇒飲食は理解が得られていない。アビスタ西側のスペースは検討。屋上はベンチを増やす。Q3 中高生、社会人の資格試験勉強、パソコン・タブレットでの仕事の書類作り、テレワークでの利用、小説執筆等、図書館の利用が多用化。様々なニーズに合わせた**学習席を確保**しては⇒館内の歩行の安全を考えて新たな学習スペースは困難。アビスタ全体で学習スペースを確保したい。

Q4 「アビスタ」図書館を利用していない人への対策は⇒土蔵古本市等のイベントやFacebookなどで広報。司書は生涯学習部へ文化面で効果的な本の紹介している。

# 【我孫子市産業拠点検討調査業務報告書】

■住宅都市として発展してきた我孫子市ですが、人口減少、特に生産年齢人口の減少により税収が減少していくことが予想されます。自立した都市として発展していくために、雇用の安定や財政基盤の強化などを目的に、産業用地を確保することが課題になっています。これまで、市では平成20年の「我孫子市工業系土地利用調査」や平成24年の「我孫子市企業立地調査」などの結果を踏まえ、今回は民間資本を活用した事業手法を検討し、住工混在解消や新規工業の進出の可能性を探っています。可能性のある調査地区として調査書では下記の4地区を挙げています。

【布施地区】用地2.4ha 埋蔵文化財調査費が入るので、概算費用18億円⇒〈評価〉アクセス道路が既存住宅地を通過するので狭く、住民との合意形



産業拠点調査対象  
市内4地区

成が必要。

【柴崎地区】高低差があり使える用地0.9ha 造成費用がかかり概算費用15億円⇒〈評価〉窪地が多く大規模な造成が必要。大型車両の通行には既存交差点の改良が必要となり事業費が大きい、小規模であれば可能性がある。

【下ヶ戸地区(商用地)】用地9.3ha 軟弱地盤対策を含み26億円⇒〈評価〉市の中心部に位置し立地は良い。農業振興地域からの除外や農地転用などの法的手続きが課題だが、中規模であれば可能性がある。

【日秀地区】用地1.8ha 埋蔵文化財調査費を入れて17億円⇒〈評価〉主要幹線道路からのアクセスが悪く、埋蔵文化財調査費が多めで難しい。

《感想》住工混在の解消に向けて市内19社中4社が関心をもっています。ただ、市としては土地の整備を行わず民間資本で取り込むという方針変更しました。「地域支援高度化事業」の活用を検討し、集約化の可能性を探っていくそうです。我孫子市として工業系、商業系土地利用を積極的に受け入れていくんだという姿勢をみせ、各企業に営業し、厳しい条件でも出資してもらえるように説得する事が当局に課された使命ではないでしょうか。

## ◎市政の注目点！

▼クラウドファンディングによるはしご車購入資金の1,000万円のふるさと納税の募集を「さとふる」にて行っております。寄付車には「はしご車」のはしご車乗車という特典があり、クラウドファンディングを行った11自治体の中で、一番の寄付金額です。また、「物語の生まれるまちあびこ」のロゴは、「クラウドワークス」にて募集し、わずか数万円にてロゴを作ることが出来ました。ネットをうまく使いながら新しい事柄にチャレンジして我孫子市の



＜一寸一言＞■6月議会においては、はしご付消防自動車を約2億円で購入する議案、高規格救急車を3800万円で購入する議案など10議案が可決されました。また、「2議席減の議員定数条例」は7-15にて否決されました。否決理由については、2000の無作為抽出アンケートや公聴会を踏まえて、現状の議員数で十分、より多くの市民の声を拾ってほしいという意見が多かった事が挙げられます。「給食費無償化」の請願については市の負担が大きくなりすぎ、実際的ではないという事で継続審査となりました。これについては、休会中に視察などを通じて勉強を進めていきたいと思っています。

■映画「恋は雨上がりのように」(主演:小松菜奈、大泉洋)のロケを我孫子にて行いました。NPOではエキストラを募集。大泉洋さんは市内やよい軒等で食事満喫!

魅力を高めてほしいものです。

▼旧農産物直売場アンテナショップの跡地ですが、サウンディング型市場調査(公有地の活用などにおいて、活用の内容や公募条件等を決定する前に民間事業者から広く意見や提案を求めるもの)を行い、直接の対話を通して事業提案や市場性などを把握し、諸条件の整理に役立てる事を目的として、現地説明会や業者と対話を行いました。公募結果の公表は8月下旬、公募は秋以降になる予定です。

▼市民文化会館の建設については、市庁舎との複合化の可能性を検討中。秋には中間報告。

E-mail : info@kai-toshimitsu.com

1972年 7月23日 大分市生まれ(楽観的なO型)  
1995年:慶応義塾大学法学部政治学科卒業  
1995年:大手小売業に入社  
2004年:衆議院議員桜田義孝秘書(06から公設秘書)  
2007年:我孫子市議会議員初当選(15年3期 2192票当選)  
◎趣味:ランニング(フル3時間12分)読書(漫画も)、  
テニス(連盟所属)、野球(連盟所属)  
◎マイブーム:ラーメン食べ歩き、パソコン、イクメン修行中  
◎家族:5人(妻、息子5歳【エーデル】、女兒双子2歳【柏鳳】)  
★Facebook Instagramやっています。

＜主な役職＞自民党我孫子市広報部長/隊友会/我孫子三田会/全国若手市議会議員の会元千葉ブロック会長/＜地域活動＞保護司/NPO法人手賀沼フィルムコミッション理事/我孫子市テニスクラブ/ウィングAC/交通安全推進隊/天ちゃんあ!美フルクラブ

☆『生き甲斐、やり甲斐、育て甲斐』のある街作り